

BLOG | だて美ブログ

しもだて美術館スタッフがおおくりするブログです。

「一年を振り返って」

2015年3月24日(火)

こんにちは。
今月のブログは、全員で一年を振り返ってみました。

だいず：まず「茨城工芸会展」がありました。
作家の先生方による制作実演やギャラリートークがとても興味深かったです。

ドレミ：茨城県には、こんなにもたくさんの工芸作家の先生方がいらしたんですね。
さすが波山先生の故郷**!!**

ラピ：夏には、中国出身の女性画家・傅益瑤(フ イーヤオ)さんの「日本の祭り絵展」がありました。

さつまいも：日本各地の祭り絵一色の展示室で、まるで自分が日本各地を旅してまわっているような、そんな楽しい気分になりました。
あらためて日本の伝統文化の素晴らしさを感じました。

ラピ：中国の方が描いた日本の祭り絵は、視点が違ってとても新鮮でしたね💎

ナユタ：私はこの展覧会をきっかけに、はじめて川渡御を拝見しましたが、朝陽のなかで輝く御神輿はほんとうにきれいでしたよ**!!**
秋は鉄道写真家・中井精也先生の展覧会でした。車両に特化していない中井先生
の、
鉄道のある日常を切りとった写真には、たくさんのあたたかい気持ちをいただきました。
鉄道の旅が好きなので、何処かに行きたくなって、ウズウズしてしまいます…。

よもぎ：鉄子ちゃんなナユタさんにはたまらない企画展でしたね**!!**
私も、中井先生の季節感あふれる優しい写真の数々とても印象に残りました。
ユーモアたっぷりの楽しいお話と先生のまんまるなニコニコ笑顔も写真展をどんと盛り
上げてくれました**!**

だいず：この展覧会の後は、鉄道の見方が少し変わった気がしました。そして12月は…

たちみみ：ゴスペルのギャラリーコンサートがありました。音楽の乗りの良さ、生の声の迫力に
圧倒されました。そして最後が、「キャシー中島 楽園のキルト展」でしたね。

ドレミ：キルト展では、「キャシーさんの大作がゆっくりと広いフロアーで見られてうれしいー**!**」との
声がたくさんありました。1針1針のくり返しから生まれる“ぬくもり”を感じました。

ライム：ドレミさん、本当キルト展素晴らしかったですね**!** 作品ひとつひとつが繊細でひと針ごとに
込めた思いを感じることができました。本気で見入ってしまいました…。
キャシーさんも美しくてキュートな女性で羨ましかったです💖

だいず：サックス・マリンバ・ギターによる「愛」をテーマにしたギャラリーコンサートでも、生の音楽を
感じる事ができてとても楽しかったですね**!!**

一年間、たくさんのイベントがあり、たくさんのお客様に来ていただき、そしてたくさんの作品と
出会うことが出来ました。また、新たな出会いが楽しみです。
皆さんにとっての一年は、いかがでしたか？

「花の雨が降る。」		
2015年2月20日(金)		レポーター：ナユタ
こんにちは。 ハワイアンキルトの作品がならんでいた一部が展示替えになり、早いもので2週間が過ぎました。 2月6日から、新たに「シャワーツリー」という、10点の連作がならんでいます。 こちらの作品は、キャシー先生がフランスのオランジュリー美術館が所蔵している、クロード・モネの「睡蓮」に感銘を受けて制作されたそうです。 睡蓮のある水の庭で、季節ごと、時間ごとに観察し、光や色彩の異なる絵を描き続けたクロード・モネ。 睡蓮の絵は、キャシー先生のころをどんな風に揺らしたのでしょうか……。 時間という曖昧なものは、はっきりと目でとらえることはできないはずなのに、キャシー先生の手を経て、 キルトという形で姿をあらわしたかのような、「シャワーツリー」。 モチーフは同じでも、ひとつひとつ、色彩や印象が異なります。 明け方、朝、昼、夕方、夜。 晴れの日、曇りの日、雨の日。 そして、涙のとまらなかった日、嬉しかった日、哀しいことのあった日、たくさん笑った日。 「シャワーツリー」は見る側の胸中がどのような状態であっても、私達のところにそっと寄り添い、 まるで恵みの雨のように、さらさらとやさしく花を降らせています。 不思議ところがおだやかになる作品です。 よろしかったら御覧くださいね。お待ちしております。		

「スイートバレンタインコンサート 愛の三重奏」を開催しました。		
2015年2月18日(水)		
2月14日(土)バレンタインデーに、企画展「キャシー中島 楽園のキルト～春を待ちきれなくて～」 関連行事として、「スイートバレンタインコンサート ♡愛の三重奏」を開催しました。 いばらき文化振興財団登録アーティストの、海老原恭平さん（サックス）、田村拓也さん（マリンバ・パーカッション）、五十嵐紅さん（ギター）にご出演いただき、たくさんのお客様にお越しいただきました。  ハワイの楽曲のほか、アンコール曲を含め、愛をテーマに11曲を披露してくださり、うっとりするような音色に、皆様酔いしれていました。		



演奏の合間には、「バレンタインデー」にちなんだ楽しい(ちょっぴり切ない?)お話もお聞かせくださり、コンサートは大盛況のうちに終了しました。
海老原さん、田村さん、五十嵐さん、ご来館いただいたお客様方、誠にありがとうございました💎💎

「キャシー中島 楽園のキルト」展の会期は、残すところ約2週間となりました。
皆様お見逃しのないよう、ぜひご来館ください！

「キャシーさんと一緒に作品鑑賞」を開催しました。	
2015年2月12日(木)	

2月7日(土)に、「キャシーさんと一緒に作品鑑賞」を開催しました。
この日を楽しみにしてくださっていた、たくさんのお客様にご来場いただきました！💎💎



実は前日6日がキャシーさんのお誕生日ということで、美術館職員一同からサプライズでささやかなプレゼントをお渡ししました。



作品ひとつひとつの制作にまつわる楽しいお話を聴かせてくださり、お客様は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

そしてお話のメインは、何と言っても2月6日(金)から新たに展示している「シャワーツリー」の連作について。
この「シャワーツリー」は、第14回東京国際キルトフェスティバル（東京ドームにて今年1月22日から28日まで開催）で出品された最新作です。

当館では、東京ドームとはひと味違い、壁一面（平面）に展示。
作品10点にも及ぶパノラマの画面が展示室のなかに広がっています。
キャシーさんも「ここで観ると迫力があるわね〜！」と喜んでいらっしゃいました。

さて、この作品、1点1点微妙に色合いが違っています。キャシーさんのお話によると、1日の天気の違いを表現しているのだそうです。



キャシーさん、足をお運びくださった皆様、誠にありがとうございました！！

展覧会会期は3月8日(日)までです。「シャワーツリー」を広々とした展示室で観られるのは、このしもだて美術館ならではのですので、ぜひご堪能ください！

！！！！！！		
2015年1月20日(火)		レポーター：ドレミ

寒い毎日が続いていますが、みなさんいかがお過ごしですか。
しもだて美術館には、ひと足早く春が訪れています。
10日から「キャシー中島 楽園のキルト～春を待ちきれなくて～」の企画展が始まりました。
チクチクが好きな私は、キャシーさんの本を見て自己流でバッグやクッションカバーなどを作ったことがあるんです。
なので、とってもワクワクな気分で初日会場に入ると・・・

わあ！！！！！！

ビックリマークが何個あっても足りません。すごいんです。でもいやされます“❤️”

ハワイアンキルトを始め、ピースワーク、アップリケ、ステンドグラスの技法を使ったキルトのタペストリー。1針1針の細かさ、きれいな色づかい等々、絶対実物をご覧になってください。

スタッフ一同心からお待ちしています♪	
--------------------	--

キャシー中島 トークショーを開催しました。	
2015年1月14日(水)	
新年明けましておめでとうございます。 本年もよろしくお願いいたします。 さて、当館では、1月10日(土)から、 「キャシー中島 楽園のキルト ～春を待ちきれなくて～」を開催中です！ 展覧会の初日には、「キャシー中島 トークショー ～私の愛するキルトのお話～」を開催しました。 キャシー中島さんは、「東京から意外と近い！」「御殿場もこんな感じです！」といった筑西市の印象をお聞かせくださいました。 トークショーの会場にも、キャシーさんの大きなキルト作品を展示。 キルトを始めたきっかけや、女性にとってのキルトの魅力、そしてお客様もお待ちかねの旦那さまのお話（夫婦円満の秘訣？）など、楽しいお話を聞かせていただきました。 キャシーさんの軽快なトークでお客様も大変盛り上がっていらっしゃいました。  展覧会場にも多くの方が足を運んでくださいました。 作品ひとつひとつの繊細な縫いにお客様は見入っていらっしゃいました。  今展では、会期中展示替えをおこない、2月6日(金)からは、展示作品がガラッと替わります。 現在の展示は2月4日(水)まで（翌日は展示替え休館）となりますので、 お見逃しのないよう、ぜひお早めにお越しください！	

『Merry Christmas and Happy new year !!』	
2014年12月24日(水)	レポーター：ナユタ

こんにちは。ナユタです。 去る12月21日(日)、ひとあし先早いクリスマスゴスペルライブを開催しました。	
---	--

ご出演は、ゴスペルクワイヤGrasshopperの皆様。
とても楽しそうに、うつくしい歌声を響かせるお姿に、たくさんの幸せな気分と元気をいただ
いてしまいました。



2曲目の「Amazing Grace」で、天使の梯子が降りてくるよう・・・と、ほれぼれしていたら
終盤、
実際に曇り空から陽が射しはじめるという、素敵なコンサートになりました。



Grasshopperの皆様、ご来場くださった多くのお客様、ありがとうございました。

どうぞ、よいお年をおむかえください。

「下館駅なか・駅まえフェスティバル」 & 「中井精也 ギャラリートーク」	
2014年11月27日(木)	レポーター：りんご

11月23日(日)の「下館駅なか・駅まえフェスティバル」
特別ゲストの中井精也先生が「出発進行」「発車！」とSLの出発合図。皆様大興奮でした。



続いて、下館駅真岡線構内に展示中のSL機関室内
子どもと一緒に汽笛一声！



午後は、しもだて美術館で中井先生との作品鑑賞会を開催。
200名以上ものお客様方にお越しいただき、大盛況でした！



中井先生、ご参加いただきましたお客様方、ありがとうございました。

展覧会もいよいよ今週末までです。お見逃しなく！！

たいせつなもの。

2014年11月24日(月)

レポーター：ナユタ

中井先生の作品は写真の神様を味方につけた奇跡的な一枚だらけ、という気がしてしまうものばかりですが、並外れた努力と忍耐でシャッターチャンスを手にとられています。



田沢湖線 鶯野～羽後長野 ©SEIYA NAKAI

こちらの作品、写っている列車は秋田新幹線こまち。列車の後方にみえる明かりのところに車を止め、かんじきを履いて歩いていき、猛吹雪のなかで撮影されたそうです。

丸く光って見えるのはフラッシュに反射した雪です。しかしまるで、星のようではありませんか？

私はこの写真を拝見したとき、宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』を思い出してしまいました。遠くへいってしまうカムパネルラと束の間、旅をしたジョバンニ…夜空をたどる、星めぐりの歌……

「絶景よりも、なんてことのない、自分のいいと思った風景を伝えたい」とおっしゃる中井先生の写真は、やさしいまなざしで鉄道のそばにある何気ない風景を、ドラマチックに変えてしまいます。尊い、かけがえのないたいせつな何かは、日常に潜んでいるのだと、気づかせていただきました。

『1日1鉄！in ターミナル・ステーションしもだて！』、11月30日までです。是非、足をお運びください。

「中井精也と行く！撮り鉄×乗り鉄×ゆる鉄の旅」	
2014年11月9日(日)	レポーター：りんご

11月1日(土)に、「中井精也と行く!撮り鉄×乗り鉄×ゆる鉄の旅」を開催しました。

生憎の雨でしたが、たくさんのお客様にご参加いただき、大変盛り上がりました！！

午前は真岡線でSL撮影、午後はSL列車に乗りました。



旅の後は、しもだて美術館でギャラリートーク＆サイン会。



こちらも引き続き、お客様方は、カメラを片手に、中井先生の作品とトークに引き込まれていらっしやいました。

中井先生、ご参加いただいたお客様方、ありがとうございました。

今月23日開催の「下館駅なか・駅まえフェスティバル」にも中井先生が登場します！

午後はしもだて美術館でギャラリートーク＆サイン会 **!!**

ぜひお楽しみに！

「Shimodate発 Mirai行」		
2014年10月21日(火)		レポーター：ラピ
毎日、仕事で乗る電車。学校で乗る電車。 休日、買い物で乗る電車。友人に会いに乗る電車。 たまに、旅行で乗る電車。 子ども、若者、お年寄、いろんな人、いろんな感情を乗せて走る電車。 電車のレールは、人と人を結ぶ。 時と時を結ぶ。 だから、人の心と心を結んでいる。 電車は単なる交通手段ではない。 そう、人の心の中には、いつも電車が走っている。コトコトと心臓のリズムに合わせて… そんな、すばらしい乗り物、「電車」！！ 鉄道写真家の中井精也先生は、1日1鉄、電車の写真を撮り続けています。 ラピは先生の作品を観て思いました。 この世界は、こんなにも美しい。そして皆、愛しい。 そして人間の生活に密着する電車からは、人々の生活の息づかいまで聞こえてくる。 これが、電車の魅力なのかもしれない。 「カメラは魔法の小箱」と先生はいう。 先生によって、魔法にかかった小箱は、ここ「Shimodate」から発信し、確実に「Mirai」へと繋がる。 皆さんも、日常の見落としがちな何気ない1コマを、しもだて美術館に足を運び、再確認されては いかがでしょうか(？. ？) ——お待ちしております——		

「SL対談！ 機関士 湯浅陽三×中井精也」		
2014年10月11日(土)		レポーター：ナユタ
10月5日の「SL対談！ 機関士 湯浅陽三 × 中井精也」にお集まりくださったお客様、天候の悪いなか、ありがとうございました！ 第1部はふだん、なかなか目にすることのできない貴重な写真や資料を、湯浅様にお持ちいただいたの対談です。機関士さん<u>じゃなきゃ</u>知り得ない、たくさんのエピソードを聴くことができました。個人的に笑ってしまったのは、「停止の指示がでていて、なんだろう？と思ったら、車掌が乗っていなかった」というお話。車掌さんは暖房用の石炭をとりについていて乗り遅れ、タクシーでかけつけたそうです。そんなこともあったのですね・・・。 第2部は中井先生のSL撮影についてのお話でした。		

SLは煙が命！
撮影ポイントBEST3は、登り坂・駅から発車するとき・鉄ちゃんの集まる場所！
季節は煙が目立つ冬が狙い目！
縦位置で撮影するのが基本！
以上のアドバイスをふまえて、中井先生がご用意してくださった真岡鐵道の多田羅駅を発車するSLの映像で擬似撮影をしました。私は携帯電話のカメラしか無く、お恥ずかしい結果になり、お見せできません……。撮影された方々はいかがでしたか？
今回の展覧会、中井先生の作品は、なんと！撮影OKです！！
ただし、フラッシュ撮影はご遠慮ください。また、他のお客様のお顔が写らないよう、ご配慮をよろしくお願い致します。

「中井精也スライド&トーク」	
2014年10月11日(土)	レポーター：ナユタ

こんにちは。ナユタです。
中井精也先生の写真展『1日1鉄！in ターミナル・ステーション しもだて！』がはじまりました。
10月4日は「中井精也スライド&トーク」ですが…この日は中井先生のお誕生日！！
美術館とお客様とで、ささやかながらお祝いをさせていただきました。

本編はスライドで作品を紹介しながら、撮影にまつわるお話を聴かせてくださいました。



こちらはもうすぐ日が暮れてしまう…というギリギリの時間、踏切の遮断機が降りるまでの数秒間、ちょうど風が吹いたときに撮影されたそうです。シャッターチャンスを待ち続けた時間は4時間！



こちらはツツジの名所の夜ノ森駅。震災後、原発の影響で現在、電車は走行していません…。

他にも、震災後の真っ暗な街のなか、希望のように煌々と明かりをつけて走る三陸鐵道の写真も展示していますので、是非ご覧ください。
最後に、中井先生のお嬢さんを撮影したスライドを拝見しました。
平和な空気感の、宝物のような風景を表現したいとおっしゃる中井先生。そのお言葉どおりのやさしさと愛情にあふれる写真をどうぞ、見にいらしてください。鉄道に興味の無い御方でも楽しめますよ！！

「夏休み宿題お助け隊—絵画」を開催しました。

2014年8月15日(金)

レポーター：りんご

8月10日(日)13時30分から、「夏休み宿題お助け隊—絵画」を開催しました。しもだて美術館の夏の恒例イベントになりました、このワークショップ。今回もたくさんの方々にご参加いただきました。



講師の谷中恭之先生から、表現方法や色づかい、構図について、子どもたちにたくさんのアドバイスをいただきました。



最初はどう描いたら良いか悩んでいた子どもたちも、次第に手が動き始め、ポスターや風景画などを、さまざまな色を使って真剣に描いていました。



短い時間でしたが、色を少し濃くしたり、縁取りをしたり、ちょっとした工夫をすることで、絵の印象が変わることを体験できたのではないのでしょうか。

谷中先生、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

お祭りのあと

2014年8月10日(日)

レポーター：ナユタ

こんにちは。今回ブログ担当のナユタです。
暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか？

先日、7月24日から4日間に渡って開催された下館祇園まつりが終了しました。
今回の展覧会のポスターになっていて、下館にお住まいの方々にはお馴染みの
下館祇園まつりは、アルテリオ裏手にある羽黒神社の祭礼です。下館の人々には
“おはぐろさん”という呼称で親しまれています。

下館祇園まつりのクライマックス、川渡御。罪や穢れを勤行川で洗い流す禊ぎの
神事だと聴きまして……どんなものなのか気になってしまい、いつてまいりました…！！

朝6時頃、澄んだ空気のなかで、御神輿は勤行川を目指し、羽黒神社を出発します。
お囃子の音色と担ぎ手たちの声が響いて、まだ静かな下館の街を目覚めさせ、徐々に
高揚させていくかのようです。

勤行川に着くと、御神輿は橋の上からクレーンで降ろされ、胸のあたりまで水につかった
担ぎ手たちに託されます。



水飛沫をあげて担がれる御神輿が、朝の陽光を弾いてきらきらと輝く、神々しくもうつくしい
光景に、思わずため息がでてしまいました…。自分の心までもが洗われるようでした…。
傳先生も、この光景をご覧になったのでしょうか……。



下館祇園まつりは終了しましたが、今回の展覧会では、これから各地で開催されるお祭りを描いた絵も展示しています。常設展でも、森田茂先生の御神輿の絵を展示していますよ。

これからの季節を心待ちにしながら、残りの夏を素敵にお過ごしくださいね。

THE MATSURI!!

2014年7月19日(土)

レポーター：ラピ

こんにちは。ラピです。

“夏”といったら、皆さんは何を思い浮かべますか？ 風鈴？花火？かき氷？すいか？

…でもなんといっても、筑西市民なら…やっぱり「下館祇園まつり」!!神と人とが一緒になり無病息災と五穀豊穰を願う、伝統ある祭りです。今年は7月24日～27日まで4日間にわたり、開催されます💎💎

毎年、20万人もの人出があります。最終日の早朝には「川渡御(かわとぎょ)」といって大神輿を勤行川に入れ、担ぎ手が胸まで水につかり、水しぶきを上げながら雄々しく担ぐ姿は圧巻です。

さて、今回の企画展「日本の祭り絵展－傳益瑤－」では、新作の「下館祇園まつり」も展示しています!! 祭りの熱気あふれる、人々の声、太鼓の音が、絵の中からも聞こえてきそうです。

こうして美術館を見渡すと、一言で「祭り」といっても、それぞれの個性が強いことが分かります。まさに、祭りの一つ一つが、日本が世界に誇れる伝統行事です。

日本ではよく神様のことを「八百万(やおよろず)の神」といいます。その神々に捧げる沢山の祭りの形があるのですね。

皆さんは、どの祭りに行ってみたいですか？ラピが行ってみたい祭りは、ズバリ「まりも祭り」!!

どんな祭りかというと、北海道釧路市阿寒湖で10月に開催されます。アイヌ民族による「まりも」を丸木舟に乗せて運ぶ「迎える儀式」など、「まりも」をめぐる多彩な祭りが3日間続くそうです。

いつかラピも見たい!!非日常的で、神々のお姿さえ、見えてきそうですね。

最近、暑くなってきましたが、下館祇園まつりでは、その暑さも見方です。皆さんも、祭りに参加されてはいかが？そして、傳さんの描いた祭りと比べてみるのも、おもしろいと思います。

美術館でお待ちしております💖

「日本の祭り絵展」作家との作品鑑賞会を開催しました。		
2014年7月16日(水)		レポーター：りんご
ただいま好評開催中の「日本の祭り絵展ー傳益瑤ー」関連行事として、7月13日(日)13時30分から、作家・傳益瑤(フ イーヤオ)さんとの作品鑑賞会を開催しました！ なんと、100名を超える多くのお客様方にお越しいただきました💎 作家の傳さんは大変明るく気さくな方で、お客様方の質問を受けながら作品や制作について楽しくお話してくださいました。 墨で描くとき、素早く描くことによって、迷いのない線が表現できるのだそうです。傳さんの描く、個性あふれる人物たちも見どころのひとつ。傳さん本人も描かれているのだとか。ぜひ展示会場で見つけてみてください！ 祭りの臨場感を感じさせる傳さんの作品。その理由は、水墨画の技法を生かした遠景の淡い筆致と人々の顔を描き出す力強い筆致との対比、そしてその画面空間の一体感にあるのですね。 その後開催されたサイン会も、大盛況。お客様方は大変嬉しそうにしていらっしゃいました。 傳益瑤さん、ご来場いただいたお客様方、ありがとうございました！！ 来週24日からはいよいよ下館祇園まつりが始まります。ぜひ併せてお楽しみください！！		

夏まつり		
2014年7月12日(土)		レポーター：さつまいも
こんにちは。今回のブログを担当します、さつまいもです。 もうすぐ梅雨が明け草木が生い茂り本格的な夏を感じさせる季節がやってきますね！ 夏といえば夏まつり――。 なかでも 地元の下館祇園まつりは 7月24日から27日まで 二基の大神輿と姫神輿、そして各町内の子ども神輿がお囃子の音と共に練り歩き市内はお祭りムードで賑わいます。 今回の「日本の祭り絵展」は、お祭開催時期に併せて行われることになったそうですよ💎 ところで夏まつりの始まりって知っていましたか？ 一般的には 春から夏の季節の変わり目に当時流行っていた疾病を神の力で追い払うことが目的だったそうです。それから時代とともに様々な要素を加え華やかさを増していったようです。 日本は 自然と神 仏 不思議なエネルギーが宿る国 日本人が歩んできた祭りの歴史にふれながら日本の祝祭文化に深い興味を持つ傳益瑤		

(フイーヤオ)さんによる日本各地の有名な祭りを描いた「日本の祭り絵展」を御覧頂き、また、いつもと違った夏をお楽しみください!!

第9回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

2014年7月2日(水)

レポーター：りんご

先週6月28日(土)、ついに最終回となりました「茨城工芸会展」アーティストトーク＆ワークショップをおこないました。
最終日ということで、たくさんのお客様にお越しいただきました。

13時から、陶磁の福野道隆先生に、まずご自身の作品についてご説明いただきました。



幾何学文様が面白い深い、福野先生の作品。いったいどのように作られているのでしょうか？

文様を描くときに定規を使っていらっしゃるかについて、お客様からご質問がありました。お答えはなんと…「曲がる定規」を使っていらっしゃるのだそうです！

この後、彩色の実演をおこなっていただきました！



細かい文様が先生の手によって描かれていきます。お客様方は、息を止めるようにしてその様子を見守っていらっしゃいました。
少しのズレは“味のひとつ”ということで、些細なズレは修正しないことが多いと福野先生はおっしゃっていました。それはまさに手仕事の温もりが感じられる理由ですね。
お茶碗や花瓶などの小品もお持ちいただき、お客様方はそのデザインの緻密さに魅了されていらっしゃいました。

15時から、ガラスの武井盛彦先生に、ご自身の作品についてお話いただきました。



その後は、制作過程について。溶けた状態の材料を竿でまわすときの様子を見せていただきました！

見た目以上に重い竿。作っている間は、まわすのを止めてはいけないそうです。指がつることもあるとか。大変な作業ですね…！

さらに、映像で実際の制作過程の様子も、を見せていただきました。熱くなっている状態では、ガラスの色の区別ができないとのことで、予めデザインは想定していらっしゃるそうですが、どんな仕上がりになるかは最後までわからないそうです。

お客様も竿を持ってまわして、楽しんでいらっしゃいました！



武井先生は、フィギュアスケートのトロフィーも制作なさった経験があり、最後にそのお写真もを見せていただきました。

福野先生、武井先生、お客様方、貴重なお話をありがとうございました！そして、井上壽博会長はじめ、ご協力くださった先生方に改めて御礼申し上げます。

さて、茨城工芸会展アーティストトーク&ワークショップは今回で終了となりましたが、今後も皆様が、アーティストトーク&ワークショップにご協力いただいた先生方、茨城工芸会の先生方の作品に出合うことができるよう、今年度に限り、個展のお知らせをいたします。

第8回アーティストトーク&ワークショップを開催しました。

2014年6月25日(水)

レポーター：りんご

先週6月21日(土)に、第8回アーティストトーク&ワークショップをおこないました。

13時から陶磁の柳橋修二先生がご担当。制作工程見本を見せていただきながら、作品についてお話いただきました。



柳橋先生の作品に施される「氷流文（ひりゅうもん）」は、どのように作られているのでしょうか？

その工程は…

- ・一度本焼きする
- ・化粧土をかけて、寒い時期に外で凍らせる
- ・二度目の本焼きをする

ということです。

実は、この「氷流文」は、先生が自ら研究を重ねて生み出した文様なのだそうです。

ところが、綺麗に文様が出て完成する作品は、半分あるかないかとのこと…
そして、この「氷流文」の技法は制作できる季節が決まっているのだそうです。



意図的に制作する部分、意図しないで作品にあらわれる部分、その両方を想定して柳橋先生は制作に取り組んでいらっしゃいます。こうした融合が、柳橋先生の作品の魅力のひとつなのですね。

お客様方も、先生のお話に大層驚いていらっしゃいました。

続いて15時から、金工の山口堅造先生に金工作品の解説と制作体験会をひらいていただきました。



山口先生は、鍛金（たんきん＝板状にのばした金属で器物などを造る金工の技法）という昔から続いている技法を多くの方に知ってもらいたいという想いで、鍛金でどこまで作品として鑑賞しうるものができるか挑戦しつづけているとおっしゃっていました。

この後、1cm角の銅製のサイコロ状のものに文様を打ち付ける体験をおこないました。



銅板に打ち付ける練習をしたら、いよいよ本番へ。イニシャルや模様などを打ち付けたら、最後はストラップにしてできあがり。お客様方は熱心に取り組んでいらっしゃいました！

柳橋先生、山口先生、貴重なお話、ありがとうございました。
お客様方、ご参加ありがとうございました！

いよいよ今週末28日(土)で、「茨城工芸会展」アーティストトーク&ワークショップは最終回となります。

13時から、福野道隆先生(陶磁)に、彩色の実演をおこなっていただきます！

15時から、武井盛彦先生(ガラス)に、制作工程や道具についてお話いただきます。

皆様のご参加をお待ちしております！！

第7回アーティストトーク&ワークショップを開催しました。

2014年6月18日(水)

レポーター：りんご

先週6月14日(土)に、第7回アーティストトーク&ワークショップをおこないました。

13時から陶磁の松井康陽先生に“練り上げ”の技法についてお話いただきました。



松井先生は、先代の人間国宝でいらっしゃった松井康成先生に師事。
膨大なテストピース(試験片)のデータをもとに制作をおこなっているとのこと。
作品に表される、微妙に異なる色の組み合わせも、その分析の成果なのですね。

色の違う粘土を重ねることで色や模様の変化を生み出すという、“練り上げ”の技法。
ミリメートル(mm)単位で精緻に作りあげられた作品は、非常に細かい作業を経て
できあがります。



今回、松井先生に3.11の震災時に被災して割れてしまった作品の陶片をお持ちいただきました。
お客様方は熱心にお話に耳を傾けながら虫めがねで陶片をながめ、その文様の細かさに驚いていらっしゃいました。

計算しつくされた技。松井先生の美しい作品は、そうした巧みな技があってこそ生み出されるのですね。

続いて15時からは、染織の梶山和世先生に、和紙の奥深さについてお話いただきました。

梶山先生にお持ちいただいた作務衣を羽織ってみると、その軽さにお客様方は驚いていらっしゃいました。長年使用することで、段々と柔らかくなり、軽くなるそうです。それも和紙の魅力のひとつといえるかもしれません。
ちなみに、先生がお召になっていたストールも作品のひとつだそうです！

さて、この後、和紙から糸をつくるまでについて、梶山先生に実演いただきました。



まず、和紙を4枚重ねに折り、両端を残して6mmごとに切れ目を入れて一晚濡れたタオルで湿らせます。

その和紙をコロコロと板の上に転がすと、ねじれて細くなっていきます。
そして、端を切りとって繋いでいくと、一本の糸になります。

次は、糸車で糸をよる作業。お客様方も糸車を回しながら糸より体験。
体験したお客様は「紙から糸をつくる作業は細かい作業だなと感じました。右手で糸車を回して、左手で糸を巻いていく加減が難しく、長年の感覚の技だと思いました。それにしても紙が服になるなんて驚きました！」とおっしゃっていました。



細かい作業を経て完成した作品には、たくさんの想いが込められているのではないのでしょうか。

松井先生も梶山先生もそれぞれ細かい作業を積み重ねて制作していらっしゃるのですが、よくわかりました。先生方、ご参加いただいたお客様方、ありがとうございました！

さて、次回6月21日(土)は、13時から陶磁の柳橋修二先生が、15時からは金工の山口堅造先生がご登場します！
柳橋先生は、工程見本と作品を見比べながらトークをご予定。山口先生は、金槌を使った制作体験会をおこないます。
皆様のご参加をお待ちしております！

第6回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

2014年6月11日(水)

レポーター：りんご

先週6月7日(土)に、第6回アーティストトーク＆ワークショップをおこないました。

13時から、陶磁の大貫博之先生がご登場。自身の作品についてご説明いただきました！



先生の作品〈白釉彩大鉢〉は、3種類の上絵の具が使用されているのだそうです。つやのある白、マットな(何も塗っていない)白、銀彩を塗った白…これら3つの“白”はそれぞれニュアンスが異なり、作品に重層性をもたせています。

もともとデザインの勉強をしていた大貫先生。笠間に居を移して以来、自然に魅了され、「自然のものを器に定着させたい」という想いから、植物をモチーフにした作品を生み出しているそうです。

ワークショップでは、先生の下絵をはがき大の陶板に乗せ、釘彫りで彫った後、白い泥を全体に塗ってその線を埋めていく（象嵌＝ぞうがん）という、装飾技法を体験しました。
コツは、同じ方向に一様に塗るのではなく、いろいろな方向から塗っていくということです。

できあがりはこちら！



塗り方ひとつをとっても、表現に変化が生まれます。表現の仕方は個々に異なるもの。それぞれに違った味わいがありますね。

続いて、15時から、刺繍の田仲範子先生に、刺繍作品がどのように作られているかについてお話いただきました。

田仲先生の作品をかたちづくっている“繡（ぬい）”。それにはさまざまなものがあるそうです。
色の強弱だけでなく、繡い方の強弱が、刺繍作品の表現を奥深いものになっているのです。

田仲先生のお話では、点の表現、線の表現、面の表現があるとのこと。点の表現には、芥子繡（けしぬい）、相良繡（さがらぬい）、乱点繡（らんてんぬい）。線の表現には、まつり繡、くさり繡。面の表現には、刺し繡。これらの“繡”は、日本の伝統にもとづいたものだそうです。

ご参加いただいたお客様方は、それらの“繡”を虫めがねで確認しながら、じっくりと鑑賞なさって
いました！



写真は、乱点繡の体験の様子。
お客様方は、夢中で取り組んでいらっしゃいました。



この後、糸縫りの体験もおこなわれました。最初は「難しい」とおっしゃっていたお客様も、和気藹々とした雰囲気の中、楽しんで体験していらっしゃいました。先生とお客様方は、大変盛り上がっていました！

大貫先生、田仲先生、貴重なワークショップをひらいていただき、ありがとうございました。
そしてお客様方、ご参加ありがとうございました。

さて、「茨城工芸会展」アーティストトーク＆ワークショップもいよいよ残すところ3回となりました。
次回6月14日(土)は、陶磁の松井康陽先生、染織の梶山和世先生にご担当いただきます！
13時から、松井先生に、“練り上げ”について語っていただきます。15時から、梶山先生に、「和紙が糸になるまでの工程」についてお話いただきます。
皆様のご参加をお待ちしております！！

花のなまえ

2014年6月8日(日)

レポーター：ナユタ

こんにちは。今回のブログを担当します、ナユタです。

桜、百合、牡丹、菊、ナニワイバラ、椿……。
只今開催中の茨城工芸会展では、花が描かれている作品もいくつか展示されています。

ぱつと見ると陶器のようで、どこか波山先生の葆光彩磁を喚起させられるやわらかい印象の〈有線七宝蔓草文香炉〉は七宝作品です。

先日、その作者、森千鶴子先生のアーティストトークに参加させていただく機会がございました。
わずか1.8mm幅の銀線で模様の枠をつくり、そこに釉薬をのせて焼成した後、砥石で表面を磨くという細かい地道な作業を経て、完成させるそうです。

誰もがご存知であろう花が並ぶなか、この作品で図案化されているのは野の花、屁糞葛（へくそかずら）。夏になると線路脇や公園のフェンスによく絡まって咲いている花です。

葉や茎、花、実を揉むと酷い悪臭を放つことから、このような哀しいなまえが付けられました。
また、花の中央の紅紫色がお灸の痕のように見えることや、鐘状の花を逆さに置くと灸を据える時の艾草に似ていることから、灸花（やいとばな）とも呼ばれています。
気の毒ななまえとは裏腹に、この花は白く、可憐です。
よろしければ、夏がくるまで、こころにとめておいてみてください。

茨城工芸会展も折り返し地点を過ぎました。作品のなかに咲く花々を愛でるのも一興です。
お見逃しの無いよう、お気をつけくださいね。

第5回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

2014年6月4日(水)	レポーター：りんご
--------------	-----------

こんにちは！イベントレポーターのりんごです。
好評いただいております、アーティストトーク＆ワークショップも、5回目を迎えました。

先週5月31日(土)は、13時から、小林政美先生(陶磁)の作品解説がおこなわれ、お客様方は熱心に作品を鑑賞しながら、聞き入っていらっしゃいました。いろいろな角度から作品を眺めると、新たな発見がありますね。



続いて、お待ちかねのワークショップ「オブジェづくり」に挑戦！
お客様ひとりひとりが、くるくると曲がった針金等を使って、円筒状の粘土を切っていきます。すると、貝殻のようなパーツが出来上がりました。



これを半円状の発砲スチロールに並べ込み、グループごとにひとつのオブジェを制作しました！皆様楽しそうに取り組んでいらっしゃいました。
完成品については、小林先生からご連絡があった際にまたホームページにてご案内いたします。ぜひお楽しみに！

15時から、辻徹先生(漆芸)に、漆作品ができるまでについてお話いただきました。



辻先生の〈桑拭漆八稜箱〉、〈錫彩花器〉両作品とも、木目を生かした作品となっています。木目を残した状態で、漆作品をどのように仕上げていくか——その技法について、ご説明いただきました。

その後、ロビーにて、制作工程の見本や様々な道具をご披露いただきました！



お持ちいただいた12工程の見本は、ほんの一部だそうです、本来ならその3倍もの工程が必要とのこと。そのお話に、お客様方は驚いていらっしゃいました。

辻先生は、「伝統工芸を守るためには、伝統的な道具が適しているけれども、だんだん手に入りづらくなっている」とも、おっしゃっていました。このような多くの難を乗り越えて出来上がる漆作品。感慨深いものがありますね。

小林先生、辻先生、ご参加いただいたお客様方、ありがとうございました！

さて、次回6月7日(土)は、陶磁の大貫博之先生、刺繍の田仲範子先生がご担当されます。13時から、大貫先生が、陶板を使って象嵌の技法に挑戦するワークショップを開催いただく予定です。15時から、田仲範子先生が、いろいろな“繡（ぬい）”を作品にどう生かすかということについて、お話いただきます。皆様のご来館をお待ちしております！

DO・RA・MA

2014年5月28日(水)

レポーター：ラピ

こんにちは。今回のブログ担当のラピです。

ラピは気づいてしまいました。焼物には長い長い、地球の歴史のDORAMAがあるということに…(@。@)

— 焼物の眠りは深い —

地球の歴史は46億年。作品の素材となる粘土は、大地のなかで静かに変化を続け、やがてこの眠りから目覚めます。人の手によって練り上げられた土は、かたちづくられ、釉薬をかけられ、焼かれ、作品として出来上がるのです。

そう。まさに、作品から、地球の歴史まで見ることができます。そのような作品を観ていると、美しいだけでなく、神々しさまで感じます。

ここでラピは、陶磁の作品のなかの一点をご紹介しますと思います。
それは…井上壽博（いのうえ じゅはく）先生の <流れ> という作品💎💎



作品に描かれている文様は、とても抽象的で、観る人によって、様々なものに見えてきます。
水の中に見える人もいるかもしれませんが、ラピは、森の中のように見えました。

うっそうと草木が生い茂り、風になびいているように見えます。そのときの天気は曇りか雨。
そして、ざわざわしている…。

まるで現代に生きる、私たちの心の中にある不安までをも、表現しているかのようです。しかし、
全体のフォルムは丸みを帯びています。先ほどの不安を打ち消すかのような、包容力のある安定したかたちとなっているのです。

その丸みは、森、地球、そして宇宙までをも感じさせます。描かれた不安と、それを包み込む
ような安心感のある丸いかたち。そのギャップが見どころだとラピは思います。
物事はすべて表裏一体なのですから…

どの作品にも、その背景には言葉では語りつくせない、地球のDORAMA、人が創り出すDORAMAがあります。
ぜひ、美術館にいらして、そんな、あなただけのDORAMAを感じて頂けたら幸いです。

第4回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。	
2014年5月25日(日)	レポーター：りんご

こんにちは。レポーターのりんごです。
昨日5月24日(土)に、第4回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

13時から、澤田勇人先生(陶磁)ご担当の解説とワークショップがおこなわれ、
たくさんのお客様にお集まりいただきました！
陶芸の道に進んだきっかけ、独自の手びねりの技、削り出しの面白さなど、大変興味深い
お話でした。お客様方も、さまざまな質問を投げかけていらっしゃいました。先生と直接お話
できるのは、このアーティストトークの一番の魅力ですね！



展示室でのトークの後は、いよいよ先生による作品制作パフォーマンスです！



見ていると、あっという間に粘土が削れていきます。道具はいろいろ。ボールペンの先もあれば、木べらなども。

私も挑戦してみました…！粘土を削るのは思ったより難しかったですが、この体験を通して作品をより身近に感じることができました。

続いて、15時から、主出眞紀子先生(染織)にご登場いただきました。初めて挑戦したタピストリー作品のほか、さまざまな作品をお持ちいただき、糸染めの難しさ、織りのプランなどについてお話いただきました！



先生のこだわりは、藍と白の二色によって、どのような変化を出すことができるか、ということ。緻密に計画を立てて、それ通りに織っていくのは、至難の業です。先生は、プランに沿って、糸を部分的に藍に染めるところ、白く残すところと両方を計算していらっしゃるのだとか。

次に、お持ちいただいた作品を触ってみることによって、“質感の違い”を体験しました。そして当日いらっしゃった、染織の松林玲子先生にも一言お話いただきました。使用した糸の種類によって、仕上がり方が違うとのこと。お二人の作品の違いも教えていただきました。

先生とお客様方は、その後も熱心に作品についてお話していらっしゃいました！



澤田先生、主出先生、いずれの先生のお話も、お客様はとても興味津々な様子で楽しんでいらっしゃいました。ありがとうございました！！

次回5月31日(土)は、陶磁の小林政美先生、漆芸の辻徹先生にご登場いただきます！
13時から、小林先生がオブジェづくりのミニ教室を開催。15時から、漆作品ができるまでについて、辻先生からお話いただきます。
貴重の機会ですので、ぜひふるってご参加ください！！

第3回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

2014年5月21日(水)

レポーター：りんご

5月17日(土)に、第3回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

13時から、筑西市出身の羽石修二先生がご登場。

羽石先生の〈窯変花器〉は、偶然に生まれた色ではなく、色味の出方やかたちなどを焼く前から細かく計算して作られているとのこと。

基本的には穴窯、仕上げにガス窯、というように、窯を使い分けているのだそうです。

窯のなかで焼くときの位置や炎のまわり方まで、狙ったイメージに近づけることによって、ひとつひとつの作品が出来上がるのですね！！



続いて、制作に使う粘土や道具についてのお話も、たくさんお聞かせいただきました。



工夫の凝らされた作品の裏側を知ることができ、大変興味深いお話でした！

15時から、七宝の森千鶴子先生に、有線七宝の制作工程について、お話いただきました。

森先生の繊細な作品は、次のような過程を経て制作されているのだそうです！
一部ご紹介します。

まず、銅版に基本的な処理を施した後、釉を付ける…焼く
↓
銀でできた薄い線（銀線）を設計図に合わせて成形し、接着する…焼く
↓
色をつける（3回）、白透（1回）…焼く
↓
磨く（凸凹の面をきれいに仕上げる）

大変デリケートで細かい作業工程を経て制作されているということが、よくわかります…！



先生の作業の様子はこちら！



お客様は、食い入るように作業をご覧になっていました。

羽石先生、森先生、ご参加いただいたお客様方、ありがとうございました！

次回5月24日(土)は、13時から澤田勇人先生(陶磁)、15時から主出眞紀子先生(染織)がご担当。

澤田先生は、参加者の皆様に“削り出し”の体験をしていただく予定です！
主出先生は、初期の作品をお持ちいただき、つづれ織りのひみつをお話いただきます。
どちらも楽しみです！皆様のご参加、お待ちしております！！

第2回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

2014年5月14日(水)

レポーター：りんご

5月10日(土)に、第2回アーティストトーク＆ワークショップを開催しました。

13時から、梶谷胖先生(陶磁)に、15時からは、筑西市出身の丸山輝悦先生(陶磁)に、それぞれお話いただきました。

梶谷先生は、作品解説の後、アメリカ・コロンバス大学時代の作品づくりの様子をビデオでご紹介。梶谷先生のトークで、会場が大変盛り上がっていました。

ワークショップでは、実際に土に触れながら、変化を楽しむことを体験。お客様は、赤・緑・白といった色を塗り重ねながら、それぞれ真剣に作品づくりに取り組んでいらっしゃいました。



ご参加の皆様による、色とりどりの作品は…こちら！！



短時間の間に素晴らしい作品ができあがっていました！

続いて15時から丸山先生の作品解説&彫の実演が行われました。波山先生と同じ土を使っていらっしゃるのだそうです。色彩と彫の繊細さは、目を見張るものがあります。



お客様も挑戦なさっていました！！



実際に、先生の制作過程を目にすることができ、彫文様に触れられる大変貴重な機会となりました。

梶谷先生、丸山先生、そしてご参加くださったお客様方、ありがとうございました！

次回5月17日(土)は、13時から筑西市出身・羽石修二先生(陶磁)、15時から森千鶴子先生(七宝)の作品解説&ワークショップを予定しています！

羽石先生は、“自然釉”についてのトークをご予定。森先生は、繊細な七宝作品を生み出す素材や道具を見せてくださいます。
貴重な機会となりますので、是非、ご参加ください！！

アーティストトーク&ワークショップを開催しました。

2014年5月7日(木)

レポーター：りんご

5月3日(土)の「茨城工芸会展―波山へのオマージュ―」展初日に、アーティストトーク&ワークショップを開催しました。

13時から、茨城工芸会会長の井上壽博(陶磁)先生に、15時から、山口みちよ(金工)先生に、それぞれお話いただきました。

井上先生は、会員一人ひとりの作品について丁寧にご紹介くださり、自身の作品についても、波山先生への思いを熱心に語ってくださいました。

この作品にはどのような思いが込められているのか？――制作の“秘密”を聞いた後は、作品に対する見方も変わってくるのではないのでしょうか。



山口みちよ先生は、金工に着手したきっかけについて語ってくださった後、ワークショップで作品の作り方を実演してくださいました。たくさんのお客様が、山口先生の指導で質問を投げかけながら、彫金のアクセサリー作りに取り組んでいました。

実際やってみると、意外と力が必要です。トントン、カンカン…打っていくと、硬さのなかに
やわらかい凹凸が生まれてくるのです。

隣りの方々と作品を見せ合いながら、作品を鑑賞することだけでなく、“作ってみる”楽しさ
も共有することができました。
井上先生、山口先生、そしてご参加くださったお客様方、ありがとうございました。



次回5月10日(土)は、13時から梶谷胖(陶磁)先生の作品解説＆ワークショップを予定していま
す。
型にとらわれない作品づくりの“秘訣”を聞いて、皆様も自由に表現してみませんか？

続いて15時からは筑西市在住の丸山輝悦(陶磁)先生にご担当いただきます。
洗練された美しい彫りと色彩――いったいどのような過程を経て制作されているのでしょうか。
是非、ふるってご参加ください！！

工芸会展再び！！

2014年5月6日(水)	レポーター：だいず
--------------	-----------

こんにちは。今回のブログ担当のだいずです。

5月3日よりはじまりました、「茨城工芸会展―波山へのオマージュ―」。

昨年、波山先生没後50年をむかえて、様々な催しが開かれています。

茨城工芸会は、波山先生が中心となって、1930年に設立された団体で、平成21年に80周年を
むかえました。その際、しもだて美術館で、創立80周年記念として展覧会が開かれました。

工芸といってもたくさんのジャンルがあってとても見応えのある展覧会でした。

今回は、陶磁・金工・漆芸・染織、刺繍、七宝、ガラスの7部門の作品が展示されています。

土曜日の午後は、作家の先生による「アーティストトーク＆ワークショップ」も開催予定 **!!**

作家の先生のお話を間近で聴けるチャンスです **!!**

ぜひお待ちしております（^ ^） /

力を合わせて！！

2014年4月23日(水)	レポーター：たちみみ、ライム、だいず、ナユタ
---------------	------------------------

だいず ： こんにちは。新年度がはじまりましたね。

謎の二人　：　そうですねー。

たちみみ　：　あれ？何か聞こえる…？もう一度呼んでみよう！こんにちはー。

謎の二人　：　こんにちはー。

だいず　：　あ！！この声は…フレッシュな二人のライムさんとナユタさんだ！！

たちみみ　：　では、自己紹介をどうぞー。

ライム　　：　はじめまして。４月から美術館スタッフの仲間入りをしました、ライムです。
宜しく願い致します。
美術館のお仕事は一年生ですが、人生はすでに半分以上過ぎてしまっています
(^_^)

皆様とすてきな出会いができますよう、トビツキリの笑顔でお迎えしたいと思っ
ております。

是非ご来館くださいませ～💎💎

たちみみ　：　次はナユタさん

ナユタ　　：　こんにちは。はじめまして、ナユタと申します。
桜の季節も終わり、はやくも少しずつ夏の匂いがしてきましたね。
若葉の美しくなるこの時期、お散歩がてら美術館をのぞいてみてください。
至らないところもありますが、お客様との出会いをたいせつにお仕事に励みます。
どうぞ宜しく願い致します。

だいず　：　ライムさん、ナユタさん、自己紹介ありがとうございました。

たちみみ　：　二人の活躍に乞うご期待！！
今年度もよろしくお願いします。